

一般建築物石綿含有建材調査者講習 過去出題問題抜粋

試験に関する注意事項

- ① この試験問題は、指示があるまで開かないでください。
- ② この試験問題は、何も書き込まないで、最後に返却して下さい。
- ③ 解答は解答用紙に『四者択一式』にて、1つのみに○印を記入して下さい。
- ④ 試験時間は「始め」の指示より、60分間となります。
- ⑤ 合格は、各科目の正解が40%以上でかつ、合計で60点以上です。
- ⑥ 不正行為があった場合には、退出・不合格となります。
- ⑦ 不合格の方の再試験は本日中に1回のみ、行います。
- ⑧ 再々試験は後日、日程をお知らせします。再受験料3,000円が必要です。
- ⑨ 解答ができた方は試験開始15分後に、問題と解答用紙を提出出来ます。
- ⑩ 当日、合否の発表を行いますので、提出後もお待ち下さい。

◎この過去問題は、実際に修了試験で出題された問題をまとめたものですが、試験日当日の問題とは異なります。

◎合格の基準は、試験官及び管理者の2名での採点の結果、各科目について40%以上、全科目の合計が60%以上となります。

岐阜労働局長登録教習機関

フレンズック合同会社 安全衛生事業部

学科修了試験問題 (一般建築物石綿調査者講習)

過去出題問題例

番号	試験科目	建築物石綿含有建材調査に関する基礎知識	配点	10問 30点	正解
問題1	「石綿の種類と定義」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				①
	①	石綿は、「いしわた」「せきめん」と呼ばれており、繊維状鉱物の総称であるが、「アスベスト」は石綿ではない。			
	②	石綿障害予防規則においては、「石綿等」とは、労働安全衛生法施行令第6条第23号に規定する石綿等をいい、石綿もしくは石綿をその重量の0.1%を超えて含有する製剤その他の物をいう。			
	③	製造等の禁止の対象となるものには、塊状の岩石であって、これに含まれるクリソタイル等が繊維状を呈していないものは含まない。			
	④	粉状のタルク、セピオライト、パーミキュライト、天然ブルーサイトは、石綿をその重量の0.1%を超えて不純物として含有している場合は、製造等の禁止の対象となる。			
問題2	「石綿の有害性」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				④
	①	吸入性石綿繊維については、世界保健機構(WHO)やILOでは、長さとの比を3:1以上でかつ幅3μm未満としている。			
	②	石綿繊維を含む粉じんのヒトへの吸入経路は鼻腔→咽頭→喉頭→気管→気管支→細気管支→肺胞道→肺胞である。			
	③	石綿繊維は幅が極めて細いので、長さ数十μmの長い石綿繊維が肺内に検出されることもまれではない。			
	④	吸入された粉じんが大量であっても、ヒトの器官による除去の機序が機能して、肺胞に粉じんが除去されずに沈着されることはない。			
問題3	「胸膜中皮腫の発症リスク」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				②
	①	胸膜中皮腫の発症リスクは暴露開始からの経過年数の3乗ないし4乗にも相関すると考えられている。			
	②	胸膜中皮腫の発症リスクはクリソタイルのリスクを1とすると、アモサイトやクリシドライトは10~15倍と言われている。			
	③	胸膜中皮腫の発症リスクは石綿の種類によって異なり、クリシドライトが最も危険性が高く、次いでアモサイト、クリソタイル、アンソフィライトの順である。			
	④	トレモライト、アクチノライトはクリソタイルより危険性が高いと推測されている。			
問題4	「石綿ばく露の医学的所見」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				④
	①	胸部エックス線検査やCTで胸膜プラークが認められた場合、一定量以上の石綿小体が肺組織中に計測された場合には、過去の石綿ばく露の医学的所見として重要になる。			
	②	胸膜プラークは壁側胸膜に生じる局所的な肥厚であり、肉眼的には白色~象牙色を呈し、凹凸を有する平板状の隆起として認められる。			
	③	同じ石綿ばく露を受けても胸膜プラークの所見を有する者は、そうでない者に比べて肺がんや中皮腫のリスクは有意に高いという報告がある。			
	④	石綿小体とは石綿繊維がフェリチン(水溶性の鉄貯蔵蛋白)で被覆されたものをいい、胸膜プラークとは異なり、過去の石綿ばく露の重要な指標にはならない。			
問題5	「喫煙の影響」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				③
	①	粉じんの吸入11ヶ月後の肺内の残留率を比べると、非喫煙者では約10%であったのに対し、喫煙者では約50%であったという報告がある。			
	②	石綿が体内に長く滞留することは、中皮腫や肺がんの原因になると言われている。			
	③	石綿は非喫煙者に対しては、肺がんのリスクを高めるようなことはない。			
	④	石綿関連肺がんの大半は、喫煙をやめることによって防ぐことができる。			

問題6	「石綿含有建材のレベル分類」に関して、次のうちレベル1に該当しなものはどれか選びなさい。		①
	①	スレートボード	
	②	石綿含有吹付けロックウール(乾式)	
	③	湿式石綿吹付け材	
	④	石綿含有吹付けパーミキュライト	
問題7	「代表的な石綿含有成形板の石綿の種類、含有率一覧表」に関する次の文のうち、石綿含有建築材料名と石綿含有率(重量%)の組合せとして、誤っているものはどれか選びなさい。		③
	①	石綿含有スレート波板 5~20%	
	②	石綿含スレートボード 10~30%	
	③	石綿含有耐火被覆板 5%	
	④	石綿含有ロックウール吸音天井板 4%	
問題8	「建築物内の石綿繊維数濃度」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	石綿繊維数濃度の計測方法には、「位相差顕微鏡を使用する方法」と「電子顕微鏡を使用する方法」がある。	
	②	「位相差顕微鏡を使用する方法」での濃度は石綿を含んだ繊維数濃度ではないため、健康影響においては安全サイド側に立ってみることができない。	
	③	吹付け石綿のある部屋の石綿繊維数濃度は、吹付け時の仕上げ状態、吹付け時からの時間の経過による経年変化やその他の要素によって異なる。	
	④	吹付け石綿が使用されている天井にポールや棒をあてる場合と、ほうきでこする場合は、100倍以上ほど石綿繊維数濃度の差がある結果が報告されている。	
問題9	「建築物石綿含有建材調査にあたっての留意事項」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		④
	①	調査にあたってはできる限り石綿を吸入しないように、防じんマスクの着用、帯電防止の作業衣の着用を行う。	
	②	石綿の有無が不明な吹付け材、断熱材、保温材、耐火被覆材を調査する時は、該当部位からの飛散を防止するため、必ず該当部位の湿潤化を行う。	
	③	S造(鉄骨造)の建築物を調査する場合、特に鉄骨に耐火被覆が施されているときは、吹付け材が劣化等により天井裏に堆積しているおそれがあるため、点検口からの調査の際、点検口からの粉じんの飛散に留意する。	
	④	板状のものは、図面上無含有建材との記載があったとしても、石綿含有の場合もあるが、逆に図面上石綿含有建材との記載があれば、無含有という場合は絶対にないことに留意する。	
問題10	「石綿含有建材調査者に求められるもの」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	「建築物解体等における石綿規制についての知識」を有することが求められる。	
	②	「建築物などに使用されている建材(石綿含有も含む)に関する知識」を有することまでは、求められていない。	
	③	「建築物などの施工手順や方法に関する基礎知識」を有することが求められる。	
	④	「各石綿分析方法の長所・短所に関する基礎知識」を有することが求められる。	

番号	試験科目	石綿含有建材の建築図面調査	配点	10問 30点	正解
問題11	「建築一般」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				②
	①	「書面調査」では、建築図面に記載されている石綿含有建材が、そのまま使用されているとは限らないので注意を要する。			
	②	建築基準法第1条には、「建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定め」と記されている。建築基準法で定めている仕様は、設計を行う上での推奨値とされている。			
	③	建築図面から石綿含有建材の記載箇所を効率的に見つけるために、建築基準法の防火規制に着目する方法がある。			
	④	建築一般の知識を頭に入れておくことは見落としを防いだり、建材の代表性(同一と考えられる建材の範囲)を誤って判断することを防止することにつながるため、非常に重要である。			
問題12	「要求される耐火性能」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				①
	①	耐火建築物の階数によって要求される耐火性能が異なることはない。			
	②	耐火性能は、「1時間耐火」などと表現される。「1時間耐火」とは、1時間の火熱でも構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じない性能をいう。			
	③	「1時間耐火」よりも「2時間耐火」の方が、より高い耐火性能を示すことになる。同じ吹付け石綿であれば、「1時間耐火」よりも「2時間耐火」の方が、吹付け層が厚かった。			
	④	同じ吹付け石綿でも、耐火時間別に耐火構造の指定番号や認定番号が異なっていた。			
問題13	「防火区画」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				③
	①	防火区画とは、火災の発生時に火災の発生元以外のところに急激に火災が燃え広がることを防ぐために建築基準法で定められた区画のことをいう。			
	②	「面積区画」とは、一定面積ごとに防火区画を行い、水平方向への燃え広がりを防止し避難を円滑にしたり、救助活動におけるリスクを低減すること目的としている。			
	③	法令により、2層以上の縦穴には、縦穴区画を設けることになっており、火災の広がりを抑えることを目的としている。			
	④	「異種用途区画」とは、同じ建築物の中に異なる用途が存在し、それぞれの管理形態が異なる場合、用途や管理形態の異なる部分を区画することで被害の拡大を食い止めるものである。			
問題14	「レベル1の石綿含有建材」に関する記述のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				③
	①	レベル1の石綿含有建材の使用目的には耐火や断熱・結露防止、吸音があり、目的によって種類を限定できることがある。			
	②	石綿含有吹付けパーライトは、耐火構造認定(旧:指定)を取得した経緯がないので、耐火被覆が必要とされる部位には使用されていることはまずないと考えられる。			
	③	湿式工法による石綿含有吹付けロックウールは表面が硬いので、吸音(遮音ではない)の性能が求められる部位に多く使用された。			
	④	吹付け工法では、水と吹付け石綿を別々に吹付けていたため、吹き付ける際に多量の粉じんが飛散した。			
問題15	「レベル3の石綿含有建材」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				②
	①	製品となっている建材中の石綿含有量は5～10%程度であることが多いことを考えると、実際の石綿含有建材の使用量は石綿輸入量の10倍以上と推計される。			
	②	表面を化粧したけい酸カルシウム板や、突き板を取り付けたボード類などは、表面観察だけで石綿含有建材であることが分かる。			
	③	石綿含有建材が単独で使用されておらず、石綿含有建材とそれ以外の材質のものとの複合化された建材が使用されていることがある。			
	④	石綿製品は、メーカーで製造されたもののほか、石綿入りの混和剤、添加剤としても流通していた。			

問題16	「建築確認図」に関する次の文中の(A)と(B)に入る語句として、正しいものはどれか選びなさい。		①	
	「建築物を建設するにあたり、管轄する関係官庁(建築指導課・消防署など)に建築物を建てる許可を得るために(A)や各申請書類などを提出する。この時の図面を(B)と言う。」			
		A		B
	①	建築確認申請書		建築確認図面
	②	建築確認申請書		建築仕様書
問題17	「設計図書の多様な図面」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②	
	①	建築物概要書には、用途、地域の種類、構造のほか、建物の高さ、階数、床面積など建物の規模に関する情報あるいは駐車場の有無などが記載されている。		
	②	案内図や配置図には、建築物内部に使用された石綿含有建材の位置を示している。		
	③	敷地求積図とは、敷地の形と寸法から面積を求めるために作成された図面をいう。		
問題18	「建築図面の入手および発注者へのヒアリング」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②	
	①	書面調査では、建築確認図などの設計図書を建築物所有者から借用することになり、建築物所有者など関係者の許可が必要である。		
	②	建築図面などの借用時には、その使用目的と不要な部分の閲覧・複製をしない旨の説明が必要である。説明した目的以外のために閲覧・複製してはいけないが、複製であれば使用後に返却する必要はない。		
	③	借用時には必ず借用書を作成し、借用した図面の種類や設計図書名を記し提出し、返却の際には図面・書類を借用書に基づき返却を確認し、後日トラブルが発生しないよう十分な注意が必要である。		
問題19	「設計図書の多様な図面」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		④	
	①	図面は大別すると、意匠図、構造図、設備図等がある。		
	②	図面上の情報はあくまで施工された当時のものを示しており、現在までの利用過程における改修作業等はほとんど反映されていないと考えておいた方がよい。		
	③	図面からの情報は調査における補助的な位置付けであり、現地での確認状況を優先することは言うまでもない。		
問題20	「一戸建て住宅」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		③	
	①	住宅とは、一戸建ての住宅や、アパートのように完全に区画された建物の一部で、一つの世帯が独立して家庭生活を営むことができるように建築又は改造されたものをいう。		
	②	専用住宅とは、居住の目的だけに建てられた住宅で、店舗、作業場、事務所など業務に使用するために設備された部分がない住宅をいう。		
	③	RC造のマンションやアパートなどにおける一戸単位の居住部分は、内装が一戸建て住宅と同等であるが、一戸建て住宅には含まれない。		
	④	プレハブ住宅とは、あらかじめ工場部材を生産、加工、組立を行い建築される住宅をいう。		

番号	試験科目	現場調査の実際と留意点	配点	10問 30点	正解
問題21	「目視調査の実際と留意点」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				④
	①	書面調査を行わなかったり、事前の計画や準備をせずに成り行きで調査を行おうとすると、適切な調査道具や装備がないばかりに十分な調査ができなかったり、肝心な部位の調査漏れを生じさせたりして、再調査が必要となる可能性がある。			
	②	再調査は調査者自身の無駄な労力になるばかりか、調査自体の正確性や依頼者からの信頼も失うものとなる。			
	③	事前調査では、内装や下地等の内側等、外観からでは直接確認できない部分についても調査する必要がある。したがって、必要がある場合は建材の取外し等も行う。取外しや部分的な試料採取後の補修等の処理について事前に打合せが必要となる。			
	④	事前調査の実施にあたって、建材の取外し等が必要な箇所は、調査を免除できる。			
問題22	「調査フロー」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				②
	①	事前に得られた情報を整理し、調査に必要な人数は何人か、どのような前段取りや機材が必要か、予想される事態は何かなど調査全体にわたる計画を事前に検討しておく。			
	②	依頼主から調査計画書の提出を求められることはない。			
	③	調査全体のフローを考えてそれに沿って行動することは、経費や労力の低減、調査の正確性や信頼性の確保において最適な方法である。			
	④	目視調査では、書面調査で得た情報(竣工図および改修時の図面情報等)と現地情報との整合性の確認を行う。			
問題23	「目視調査に臨む基本姿勢」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				③
	①	調査には迅速性が必要だが、場所によっては落ち着いて、時間をかけて調査を行う必要がある。			
	②	入室したドア近辺から、一部の天井や壁だけを目視して対象物の有無を判断してしまうような、粗雑な調査をしなければならない。			
	③	万一の粉じん等の落下に対処するため、事前にシートを広げておく、ウェットティッシュやプロア(送風機)で清掃することなどは必須事項である。			
	④	機械室等狭い部がある調査では、調査時に柱や壁に作業等が接触し、粉じんが付着する可能性もある。			
問題24	「調査時の留意点」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				②
	①	現地調査における最大の留意点は調査ミスをしないうことであり、この調査ミスで最も多いのは調査漏れである。			
	②	調査にあたっては、書面調査のみで判断せず、2006(平成18)年9月の石綿禁止以降に着工した建築物等であっても、必ず目視調査を行うこと。			
	③	事前調査では、解体 改修等を行う全ての建材が対象であり、内装や下地等の内側等、外観からでは直接確認できない部分についても調査が必要である。			
	④	設計図書等と相違がある具体例として、例えば、改修が行われている場合や、仕様を満たすため現場判断で設計図書と異なる施工をした場合が挙げられる。			
問題25	「レベル3の成形板の裏面等調査」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				④
	①	成形板裏面確認時、厚さも確認する(天井点検口があれば調べやすい)。天井点検口の材料は、天井使用材とは違う可能性があることを考慮する。			
	②	一つの天井・壁の使用材料の3以上の建材に同じ製品が使用されているかを目視確認し写真に収める。企業名、商品名、不燃番号、ロット番号などを詳細に確認する。			
	③	裏面の不燃番号等が判明したら、スマートフォン等を活用し、すぐに石綿含有建材データベース(Web版)にて確認する。			
	④	天井・壁等の裏面の情報が確認できれば、建材を製造していたメーカーがすでに存在しないということは、ありえない。			

問題26	「非破壊調査と取外し調査」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	改修・解体のための事前調査では、必要があれば取外し調査を行い、全ての範囲について調査を行う必要がある。	
	②	目視調査において調査者自身が石綿ばく露しないようすることが基本であるが、できるだけ建材の切断等による取壊しを伴った取外し調査を行うように努める。	
	③	改修・解体のための事前調査においては、改修工事などにより、二重仕上げや隠ぺい部に使用されているおそれのある箇所は、取外し調査で確認し、試料を採取する。	
④	取外し調査を行う場合は、取外しや試料採取前後を撮影し(可能であれば試料採取中も撮影を行うことが望ましい)、整合性の確認表と調査報告書に記載する。		
問題27	「調査者による試料採取」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	事前調査において、石綿含有の有無が明らかにならない場合、石綿等が使用されているものと「みなし」て必要な措置を講ずる場合を除き、試料を採取して、分析による調査を行い、石綿含有の有無を明らかにする必要がある。	
	②	同一と考えられる建材の範囲ごとに、1カ所に絞って試料を採取すること。	
	③	レベル1及びレベル2の建材製品は、できる限り採取するようにしたい。しかし「調査者の労働安全衛生上の留意点」が守れない場合は実施すべきではない。	
④	施主からの要請で、試料採取ができない場合は、報告書に部位と理由を必ず記載しておく。		
問題28	「試料採取箇所の選定」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		①
	①	天井、はり、柱、壁に同様の吹付け石綿が施工されている場合は、どこか1カ所に絞って採取することが望ましい。	
	②	人が出入りするなどして接触する機会の多いドア周辺や、電気スイッチ類の近辺からの採取は避けるようにしたい。	
	③	使用中の建築物の調査では、できるだけ目立たない場所で採取するよう配慮することが望ましい。	
④	目視調査により試料採取が必要な箇所が新たに判明した場合は、順次加えて採取する。そのため、実際の試料採取にあたっては、依頼主、分析機関との協議が重要となる。		
問題29	「目視調査の記録方法」として、写真の撮り方に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		①
	①	目視調査段階では、調査報告書に添付できる写真を撮影しておく必要はない。	
	②	現地での写真撮影は、その写真を編集し、報告書を作成する調査者自身がカメラマンとなることが望ましいが、複数人で行う場合には、皆で協力し合って記録を残していくべきである。	
	③	対象物は広角撮影と近接撮影(アップ)をしておきたい。ただしアップで真正面から撮影すると編集時に平面図で内容不明、部位不明の写真となってしまうおそれがあるので注意しておきたい。	
④	写真の構図(フレーミング)は全写真ともできるだけ横の構図としたい。縦の構図と横の構図の写真が入り混じると、現地調査報告書が読みにくいものとなるし、編集しづらい。		
問題30	「建材の石綿分析法の変遷」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。		②
	①	建材中の石綿含有率の基準値は5重量%から1重量%、0.1重量%へと安衛令の改正に伴い時代とともに低い値に推移してきた。	
	②	2008(平成20)年に、初めて国内で主に使用されていた3種類のアスベストが分析対象となった。	
	③	2012(平成24)年と2014(平成26)年には、国際標準規格の定性分析法と定量分析法が発行され、2014(平成26)年にJIS化された。	
④	「アスベスト分析マニュアル」は、随時改訂が行われ、その時の最新の知見等を取り入れてきているので、参考にすることができる。		

番号	試験科目	建築物石綿含有建材調査報告書の作成	配点	5問 10点	正解
問題31	「石綿含有建材有無に関する事前調査結果報告書」に記載すべき内容として、次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				③
	①	調査対象材料の項目では、吹付け材・保温材・断熱材・耐火被覆材・成形板・その他の該当するもの全てを選択する。			
	②	調査方法の項目では、書面調査、目視調査、分析調査の該当するもの全てを選択する。			
	③	特記事項には、今回調査できなかった箇所を記載し、なぜ調査できなかったかは口頭で説明をするようにする。			
	④	特記事項には、調査者からの今後の解体・改修時のためのアドバイスを記載する。			
問題32	「調査詳細報告書」の記入にあたっての注意事項に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				④
	①	調査の種類は、解体・改修工事前の調査なのか、その他の調査なのかを記入する。			
	②	実施者は、氏名、資格名、資格認定(登録)番号、書面調査と目視調査それぞれに書く。			
	③	各部屋の調査結果について、左から、通し番号、階数、部屋名、部位を記入する。			
	④	書面調査の項目のうち、石綿含有の可能性の欄には、書面調査の段階で判断できない場合は「あり」と記載する。			
問題33	「調査詳細報告書」の目視調査の項目の記入にあたって、次の文の中で誤っているものはどれか選びなさい。				②
	①	整合性の確認として、書面と現地が整合する場合は○、整合しない場合は×で明示する。			
	②	材料名は整合する場合のみ記録し、整合しない場合は記録しない。			
	③	写真番号は、整合性の確認状況写真と試料採取等の状況写真の番号などを記入する。			
	④	採取位置は、試料採取位置図との連携を記載する。			
問題34	「調査詳細報告書」の診断の項目の記入にあたって、誤っているものはどれか選びなさい。				③
	①	判断根拠について、分類を、決められた a～e の記号で記入する。			
	②	石綿の有無について、「あり」か「なし」かの二択を記載する。			
	③	石綿の種類については、クリソタイル＝クリのように、短縮して記載はせず、全て正式の名称で記載する。			
	④	材料レベルについては、レベル1、レベル2、レベル3、仕上塗材、無石綿を記載する。			
問題35	「石綿を含む建築物の維持管理」に関する次の文のうち、誤っているものはどれか選びなさい。				①
	①	位置図を基に、3年に一回程度は定期的劣化等の状況の外観調査を行うこと。			
	②	該当部位には、「石綿含有あり」との表示を行う。			
	③	該当室内で各種作業を行う場合は、該当部位に接触または、機械等による損傷を避けるよう関係者に通知する。			
	④	定期的に室内の石綿繊維数濃度の測定を実施し、飛散・ばく露のおそれがないかを確認する。			